

○アンビシャス・青年リーダー養成事業と南筑後企画運営委員会（青年リーダー）について

（事業目的）

地域の担い手として主体的・継続的に青少年アンビシャス運動に参加する青年リーダーを養成するため、各種の研修会等を実施し、もってアンビシャス広場等の活動の充実を図る。

（南筑後青年リーダー：9名（社会人7、専門学校生2）※放課後児童クラブや子ども会等の活動に参加
レクリエーション、バルーンアート等

1 目的	各地域運営委員会の委員を中心に青年リーダーが集まり、演習を通して、アンビシャス広場からの要請に応えうる知識と技能を身につける。また、各地域の課題を出し合い、その課題解決の方策について協議することで、企画運営委員としての意識の向上と各地域における青年リーダー養成の取り組み内容の充実を図る。
2 対象者	各地域の青年リーダー、青年リーダーに興味のある方（39名）
3 期日	平成29年10月1日（日）
4 場所	筑後市中央公民館（サンコア）3F 軽運動室
4 内容	演習「仲間をつなぐイニシアティブゲーム」 講義「体験学習とは」「諫早のプログラム紹介」 国立諫早青少年自然の家 企画指導専門職兼事業推進係長 山口 圭吾 企画指導専門職 原 将成
(1) 演習Ⅰ 昼食（交流）	
(2) 演習Ⅱ	
(3) 講義	
(4) 交流	

5 評価

(1) アンケートの結果から

◆演習・講義について

- ・体を使う活動から頭を使わないといけない活動など1人ひとりが個性を發揮できるようなゲームが組み立てられており、みんなが楽しめるような内容だったと思う。また、ゲームを行う上での設定もおもしろく、より楽しめるような工夫がされていて勉強になった。
- ・体験することで終了ではなく、その後しっかりと振り返る事も大切だと学ぶ事ができた。振り返りを行うことによって、自分のものになる。
- ・振り返りの大切さ、教えないことの大切さを理解しました。教員になった時にも、授業で使えるようなことを学べました。

◆情報交換（班ごとの昼食、地域ごとの青年リーダーの交流）について／その他

- ・地域ごとの特色ある活動を聞いて、自分も参加したいものがありました。又、学生が多く、学生が行うボランティア活動の情報交換ができてよかったです。
- ・チームで模造紙を使って目に見える形で（意見・考え・思い）を書くことは共有につながり、今後取り入れてみたいと思った。

(2) 成果と課題

- 国立諫早青少年自然の家で実践されている、※PAの考え方を踏まえた「イニシアティブゲーム」を体験しながら学んだことは、どの青年リーダーにも今後の活動の刺激となったようであった。メンバーとだんだん親しくなっていく過程を参加者として実感し、また、指導者の声かけ、間の取り方等、自分たちがリーダーとして活動するときの態度等についても考えていた。

※PA・・・プロジェクトアドベンチャーの略で、様々な体験を通じて、個人やグループの自己の成長や問題解決能力の向上を目指した教育法である。国立諫早青少年自然の家では、PAの考え方をベースとした活動を提供している。

<研修会の様子>



【演習の様子①「アマゾン」】

円の中心部に水の入ったバケツが置いてあり、ロープだけを使ってバケツを円の外に出す。ただし、途中でバケツが地面についてはいけない。

室内での活動のため、バケツの中には水ではなく大きめの石、ゴルフボール、どんぐり等が入られていた。参加者は力を合わせ、何回かバケツをひっくり返して苦労しながらも、より早く円の外に出す方法を見つけていた。



【演習の様子①「アシドリバー（硫酸の川）」】

グループに与えられたマットだけを使って、メンバー全員が川（川に想定した部分・10メートル程度）を渡ることが課題である。マットは必ずだれかの体に触れておく必要がある。

30cm程度のマットをグループで人数-2枚持ち、必ず足でマットを踏んでいる状態で一步一步進んでいく。「マットだけを川に置くと流されてしまう」という設定で、最初はマットがどんどん減らされていくグループがいた。しかし、より密着して渡ったり、少人数で渡ることを繰り返したり、工夫が見られた。



【ふり返りの様子】

どの活動も終わった後にはふり返りの時間（10分程度）があった。最初は模造紙に全体のテーマと個人のテーマを決め、それがどうだったか個人でふり返り、その後グループでのふり返りを行い、「楽しかった」だけでは終わらない価値ある時間であった。

終盤にはそれぞれのグループのふり返りの過程を全体で交流することで、学びがさらに共有された。



【講義の様子】

自然の家での活動の根底にある考え方や、ふり返りの重要性について、一日の体験をもとに考えた。



【集合写真】